

II 学事暦の改革

学期制のメリット・デメリット

ベストの学期制はない！

	クォーター制	セメスター制
より多くの科目を履修	○	
密度の濃い科目設定		○
集中的な学修経験	○	
精神的疲労感	○	
就職活動		○
教員と学生の相互作用		○
ゆとりの授業		○

短期に多くの科目履修をさせるにはクォーター制（学部型）がベター



1科目の総履修時間数が異なる 2:3

学期制変更は、シラバスの変更を伴う

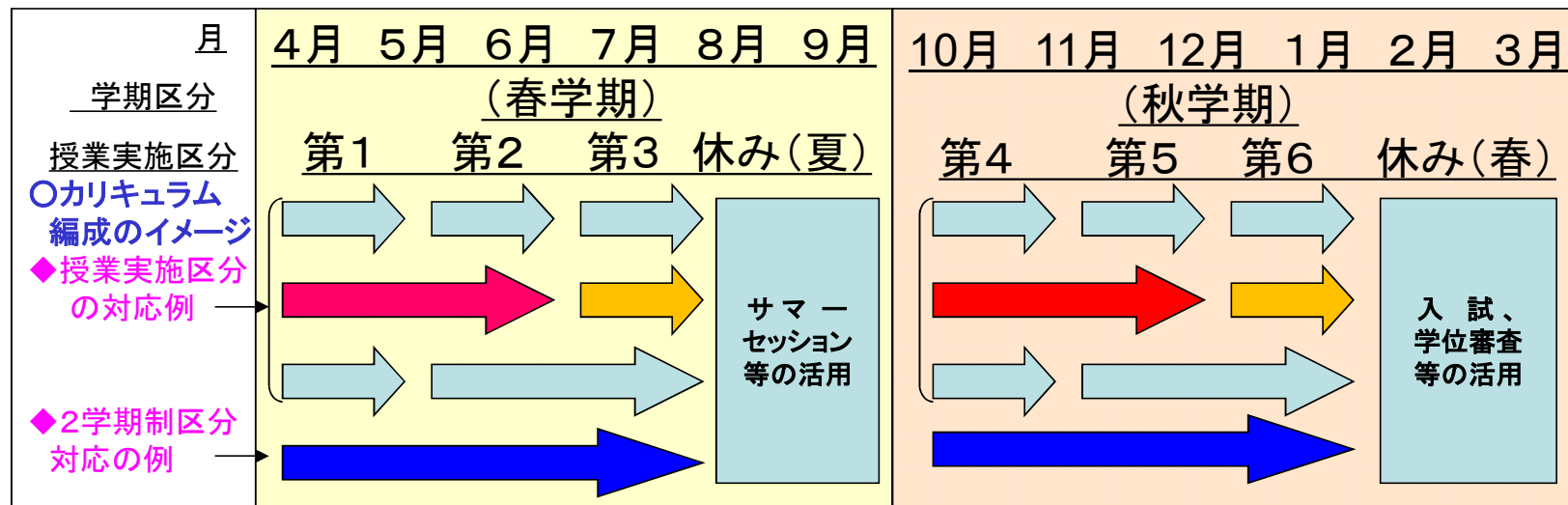
筑波大学での改革事例 (平成25年度から)



- 3 学期制と 2 学期制を組み合わせた **6 つの区分で学期制を運用し**
他大学を先導することを授業運営体制の基本とする-

現行の 3 学期制から 6 区分の 2 学期 (セメスター制) へ移行

- ①大学設置基準で規定される**セメスター単位**の趣旨を徹底
- ② 5 週や 10 週の授業期間を残しながら、15 週の授業実施も可能 (期末試験を除く。)
- ③授業は、学期及び授業実施の区分期間の**完結型**
- ④**モジュール制**: 1 モジュール=5 回、2 モジュール=10 回、3 モジュール=15 回



(結果)
赤と青
が
半々

(1) 学事暦改革のねらいと特徴

① 3つの視点からの見直しの方角性を明示

- 1) 学生本位の視点に立ち、**教育の実質化・質保証**を実現させる学期制
- 2) これまで実践されてきた本学での3学期制の良さを生かせるような**柔軟に対応した**学期制
- 3) 国内外の実施状況を勘案し、筑波大学の特色を生かしつつ**他大学を先導する**学期制

② 筑波改革の特長点

- 1) **分野特性に応じた柔軟な学期制**と学期完結型授業の実施
- 2) 「筑波DNA」の継承と1単位の定義の明確化
 - **1コマ=75分授業**の堅持
 - 設置基準の「1単位=45時間の学修」に替わる定義（考え方）
 - 1単位=原則として週1コマ（75分）の授業を10週**
 - 1.5単位=原則として週1コマ（75分）の授業を15週（語学や実験・実習等は別）**

③教育の実質化方策(6方策)

1)方策1:教育目的や教育目標に応じて、現在の開設授業科目の見直しや科目数の精選を図る
基本設計:概ね15%の削減をめざす

2)方策2:円滑な移行を図るために、必要な場合、現在の開設科目の単位数の変更を伴う

基本設計:原則として、学期完結型授業とする

1単位計算方法の弾力化を活用する

講義・演習 15～30時間(22.5時間も可)

実験・実習・実技等 30～45時間

授業形態の併用を活用する。

講義+実習 22.5時間=1単位

3)方策3:履修登録者数と開設授業科目の関係を明確にし、履修登録者数による不開講科目の規程を整備する(→未実施)

基本設計:学群・学類では、履修登録者数5人未満の科目は不開講とする

4)方策4：**自学自習を促す**履修システムやシラバス等の改善を図る

基本設計：CALLシステムの活用を促す。シラバスに「自学自習欄」を設定する

5)方策5:成績の評定方法（A～D）の見直しや**GPA制度の全学的導入**を検討するとともに、
成績評価の厳格化を図る

基本設計：S（100-90）A（90-80）B（80-70）C（70-60）D（60未満）の全学統一を図り、
GPA制度を全学的に導入する（S及びAの割合を概ね30%で調整）

→（現在は）A+（90～）4.3、A（80～89）4、B（70～79）3、C（60～69）2、D（～60）0 で運用

6)方策6：本学の**15単位ルール**、**45単位履修登録上限制**などの**サブシステム**についても再検討する

基本設計：15単位ルールは維持するが、「除籍」などの対象としない

また、再入学規定から15単位ルールを外す

さらに、学群の在学年限の延長も検討（6年から8年へ→検討中）

国立高専におけるカリキュラム 構築・評価プロセス

1. 全国立高専は、モデルコアカリキュラム(MCC、全高専共通ならびに分野別の必須の到達目標)をDPに内包してカリキュラムを構築。
2. シラバス作成において、MCCやJABEEなどに定める到達目標とその到達水準をカリキュラムに割当て*1、カリキュラムの確認*2を行う。

*1 全国立高専共通のシラバス入力システム (Webシラバスと称する) を利用し、授業の到達目標とMCC等と紐づけ、評価ルーブリックなどを必須項目として入力。これにより、カリキュラムマップは自動生成される。

*2 学校全体・学科 (コース) のカリキュラムマネージャは、それぞれ教務主事や学科長 (コース長) であり、Webシラバスを用いて到達目標の抜け漏れ、重複などを確認する。

①カリキュラム設定の流れ (カリキュラムマネージャの役割)



高専におけるカリキュラム構築・評価プロセス

② 学科の到達目標と到達水準の設定

生産システム工学科

目標 > 学習内容 > 科目割当 > カリキュラムマップ > 集計 > 集計サマリー

指定年度から到達目標設定をコピー

教育領域

- 基礎的能力
 - I. 数学 ①
 - II. 自然科学 ⑤
 - III. 人文・社会科学 ③
 - IV. 工学基礎 ④
- 専門的能力
 - V. 分野別の専門工学 ⑬
 - V-A. 機械系分野
 - 製図 ③
 - 機械設計 ③
 - 力学 ③

MCCの製図の到達目標

他校/他学科のカスタム学習内容を表示 学習内容の追加 分野を削除

目標水準

● 機械製図の基礎(製図)

学科としての目標水準設定

- ③
- ③
- ③
- ③
- ③

図面の役割と種類を適用できる。
製図用具を正しく使うことができる。
線の種類と用途を説明できる。
物体の投影図を正確にかくことができる。
製作図の書き方を理解し、製作図を作成することができる。

● 製作図(製図)

③ 到達目標に対する科目の割当設定

学習・教育到達目標 モデルコアカリキュラム JABEE評価 その他

科目対応表

開設科目

MCC分野

科目割当

科目	到達目標 1	到達目標 2	到達目標 3	到達目標 4	到達目標 5
数学					
自然科学					
物理					
物理実験					
化学(一般)					
化学実験					
ライサイエンス(アースサイエンス)					
英語					
社会					
工学基礎					
工学基礎					
情報リテラシー					
グローバルリゼーション・異文化多文化理解					
機械系分野 > 製図					
製図					
機械系分野 > 機械設計					
機械設計					

④ カリキュラムマップ (自動生成)

学年

学年	1	2	3
基礎的能力	数学 I	数学 II	数学 III
専門的能力	工学基礎	機械設計	力学
到達目標	①	②	③

基礎的能力・専門的能力

⑤ 到達目標設定の確認

生産システム工学科

科目ごとの設定した水準

学科として設定した水準

学校として設定した水準

到達目標チェック

● 機械製図の基礎(製図)

図面の役割と種類を適用できる。
製図用具を正しく使うことができる。

水準の重複や逆進などを自動で提示 → 到達目標の改善